

図画工作

指導計画作成上の留意点及び配慮事項はどうなっているのか。 (配慮事項の詳細)

配慮事項の詳細は以下のとおりである。

(1) 表現及び鑑賞の各活動において〔共通事項〕を十分指導すること

※ 詳細については、〔共通事項〕についての項を参照

(2) 工作と絵や立体に表す内容の授業時数はおおよそ等しくなること

- 絵や立体、工作に表すことをまとめて示すことによって、内容や指導、題材の選択に不均衡が起こらないようにするため
- 児童が手や体全体を働かせてものをつくる活動の機会が減少していると言われる。ものをつくる経験は、単に技術の習得という観点だけではなくよさや美しさを大切にする気持ち、自発的に工夫や改善に取り組む態度などからも重要であるため
- 「A表現」及び「B鑑賞」全体の内容の授業時数の配分については、各内容を十分に関連させ、内容に偏りのないように全体の配当を考えて計画を立てることが大切であるため
- 工作に表す内容については、小学校図画工作科が中学校技術・家庭科の技術分野と関連する教科であることに配慮する必要があるため

(3) 「B鑑賞」は、「A表現」との関連を図り、指導の効果を高めるときは、独立して行うよう工夫すること

【独立して扱うときの配慮事項】

- 児童の関心や実態を十分に考慮した上で、鑑賞を独立して扱うこと
- 児童がよさや美しさなどについて関心をもって見たり一人一人の感じ方や見方を深めたりすることができるような内容であること
- 鑑賞する対象は発達の段階に応じて児童が関心や親しみのもてる作品などを選ぶようにするとともに、作品や作者についての知識や理解は結果として得られるものであることに配慮すること
- 児童が対象について感じたことなどを言葉にしたり友人と話し合ったりするなど、言語活動の充実について配慮すること

(4) 「A表現」の指導には、適宜共同してつくりだす活動を取り入れること

- 児童が友人と共に活動することを楽しむ傾向を生かし、適宜共同して製作する内容を取り入れること
- 共同して表現することは、様々な発想やアイデア、表し方などがあることにお互い気付き、表現や鑑賞を高め合うことを踏まえ、活動を設定する場合には、児童の実態を考慮するとともに、児童一人一人の発想や技能などが友人との交流によって一層働くようにすること
- 一人一人が共に活動に参加しているという実感がもてるように工夫すること（決められた部分を受けもつだけで活動が終わらないようにすること）

(5) 低学年においては生活科との関連を図り、特に第1学年では幼稚園教育との関連を図ること

幼児期は体験活動が中心の時期であり、周りの人や物、自然などの環境に体ごとにかわり全身で感じるなど、活動と場、体験と感情が密接に結び付いている。小学校低学年の児童は同じような発達の特性を持っており、**体験を通して感じたことや考えたことなどを、常に自分なりに組み換えながら学んでいる。**

このような発達の特性を生かし

○ **生活科など他教科等との関連**を積極的に図ったり、**幼稚園や保育所、認定こども園での表現に関する内容などを参考**にして低学年の題材を検討したりする工夫が必要である。

例えば、

- ・ 育成を図る資質や能力を明らかにした上で、題材を選択する時期を他教科等の関連的な題材と時期を合わせる。
- ・ 図画工作科の時間につくったものを生活科で紹介する など

他教科等の時間を使うことや、他教科等における自然や社会などの経験を造形的な発想に生かすこと

(6) 道徳の時間との関連を図ること

学習指導要領の第1章総則の第1の2においては、「学校における道徳教育は、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳の時間はもとより、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、児童の発達の段階を考慮して、適切な指導を行わなければならない」と規定されている。

図画工作科の指導においては、その特質に応じて、道徳について適切に指導する必要がある。

学習活動や学習態度への配慮、教師の態度や行動による感化とともに、以下に示す図画工作科の目標と道徳教育との関連を明確に意識しながら、適切な指導を行う。

図画工作科の目標の「つくりだす喜びを味わうようにする」ことは、美しいものや崇高なものを**尊重する心につながるもの**である。また、造形的な創造による**「豊かな情操」は、道徳性の基盤を養うもの**である。

道徳教育の要としての道徳の時間の指導との関連は、例えば、

- ・ 図画工作科で扱った内容や教材の中で適切なものを、道徳の時間に活用することが効果的な場合もある。
- ・ 道徳の時間で取り上げたことに関係のある内容や教材を図画工作科で扱う場合には、道徳の時間における指導の成果を生かすように工夫することも考えられる。

図画工作科の年間指導計画を作成する際には、道徳教育の全体計画との関連、指導の内容及び時期等に配慮し、両者が相互に効果を高め合うようにする。